

村の自然

村の新たな観光資源に「あがり」サワラ

村の有明山のふもとに馬羅尾高原清流の森がある。そこに、あがりサワラの群生地が存在する。「あがり」とは、幹の上部を切り、側枝の生長を促し、あらたな樹に生長させる栽培方法である。それを繰り返して行った結果、複数の幹が分岐して広がった樹形になる。「サワラ」は中部地方に多く分布している針葉樹である。あがりこの栽培方法は広葉樹では多く知られているが、針葉樹であるサワラの群生地は村と山梨県山梨市のみで確認されている。

木の、最も古い萌芽幹で160年生、最も新しい萌芽幹でも80年生ほど

馬羅尾高原にあるあがりサワラ



を見ることもできる。村は、この謎に包まれた不思議な木を観光資源にしようと力を入れている。国有林である馬羅尾高原は、国が所有している。国と「郷土の森」という協定を結び、自然を守りながらPRしていくとのことだ。

あがりサワラは、人の手が加えられたとは思えないほど森の中のびやかに生きていく。普通では、見ることもできない樹形をした巨木からは、不思議なエネルギーを感じることもできる。私たちはこれを次の世代へとつなげていきたい。

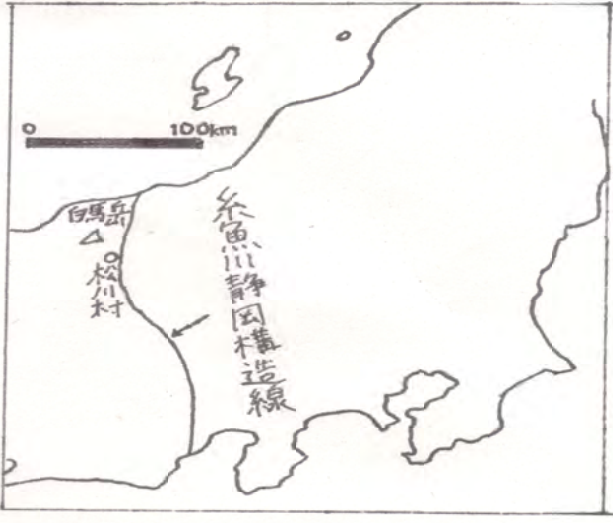
松川村の地下には、「糸魚川静岡構造線」と呼ばれる、大きな活断層が、通っている。糸魚川静岡構造線は、本州を縦断し、日本列島を東西に分ける活断層。教科書に載っている程、有名な。糸魚川静岡構造線は、マグニチュード8程度の地震を起こす可能性が、非常に高い。過去にも、何度か大地震を起こし

地下に迫る大地震の危険

松川村の地下には、「糸魚川静岡構造線」と呼ばれる、大きな活断層が、通っている。糸魚川静岡構造線は、本州を縦断し、日本列島を東西に分ける活断層。教科書に載っている程、有名な。糸魚川静岡構造線は、マグニチュード8程度の地震を起こす可能性が、非常に高い。過去にも、何度か大地震を起こし

ており、これから30年以内に14%の確率で起こるといわれている。また、2011年3月に起こった東日本大地震に伴い、地震発生確率がさらに高くなっているとも考えられる。糸魚川静岡構造線が活動すると、松川村を含む、大北・松本地域でも、震度7の地震が起る可能性がある。そのような、大地震の危険がある松川村。村では、地震が起きたときの、防災訓練を行ったり、多くの避難所を設けたりしている。松川村では、これから起こる可能性の高い大地震に、対処しながら生活していくことが大切である。

糸魚川静岡構造線



世界で一つ ずずむし保護条例がある村



松川村の有名なもの一つとして鈴虫がある。村のマスコミキャラクターは、スズムシの「リンリンちゃん&りんたくん」。村のマスコミキャラクターにしてしまおうほど、松川は鈴虫を愛している。また、松川村は鈴虫を保護するため、村に「ずずむし条例」

がある。村は鈴虫が本場に大好き！また、繁殖させ全国へも発送し、日本全国で松川村出身のずずむしの鳴き声を聞くことができます。（問い合わせ）松川村役場 経済課観光係 電話（0261・62・3111）

私を捕らないで！！

「ずずむしの里」として地域の活性化に取り組む西原地区は、古くからスズムシの生息地として知られていた。しかし、開田や農業散布の影響でずずむしの生息数が激減した。そこで、村では、20年前から低農薬の米作りを広げ、スズムシが生息しやすい環境づくりに取り組んできた。ずずむしを保護する動きが高まる中、村として保護する条例を制定することを決めた。「ずずむし条例」制定は、村に観光振興を助言している松本大（松本市）が提案した。条例は全6条で、繁殖などの保護目的で村長が認める場合を除き捕獲を禁止している。原則として村内では捕獲禁止だが罰則は設けられていない。

平林明人村長は、スズムシと共生する自然環境、豊かな村と安心安全な農産物をアピールしたいと条例制定の効果を期待する。スズムシを守る事は、村の財産である安曇野の景観を残すことでもあると制定に意欲を示している。

自然界でも女性が強い

松川村では、ずずむしを模したキャラクターを作ったり公共施設にスズムシをちなんだ名前をつけたりしている。りんたくんとりんりんちゃんには常に微笑んでいて優しい顔をしているが、実際のずずむしは動物性たんぱく質（人間でいう肉類）がなくなると仲間を食べべしてしまうことがある。いわゆる肉食性である。しかし、結局は卵を産むためにどうしても動物質が必要になるのでもりんりんちゃん（♀）は弱ったりんたくん（♂）をたべてしまう。やっぱり、自然界でも女性のほうが強かった。